



2025年11月27日

2026年3月期第2四半期 (上期) 決算説明

株式会社アール・エス・シー
(東証スタンダード 4664)



01

2026年3月期上期決算の概要

02

中期経営計画の進捗と具体的な取り組み

2026年3月期上期 ハイライト

01

前年同期比

【売上高】

△ **26.3%**

【営業利益】

△ **70.8%**

新規受注の拡大、万博警備の成功、
適正価格への転嫁が円滑に進んだものの
前年大型イベント・工事受注の反動により減

02

新規営業状況

<警備部門>

- ・ 大阪・関西万博の警備業務受注
- ・ 豊洲セイルパークビル警備業務開始
- ・ ミタマチテラス警備業務開始

<清掃部門>

- ・ 大阪エリアの大型複合施設清掃業務受注
- ・ 千代田区エリア複合施設の清掃業務拡大

03

警備DX化の進展

【技術力の強化】

**ミタマチテラスで警備DXを
取り入れた警備業務を開始**

AIを搭載した最先端のセキュリティロボットと
人的な警備を組み合わせたサービスを提供

04

経営基盤の強化

【業務分野の拡張】

**2号警備に特化した
「RSCセキュリティ」を設立**

警備全体の採用力の強化、お客様のニーズに合った
警備サービスの提供

連結 損益計算書

◎前期において臨時業務受注が好調であったグループ会社の工事業務、ならびに大型周年イベント業務の反動が大きく影響し、また過年度の損益修正に伴い減収・減益となりましたが、業務のDX化推進、既存事業所への契約料金改定、新規受注等により基幹業務については順調に推移しております。

損益計算書

単位：百万円

	25/3期 上期		26/3期 上期		前年 同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	5,082		3,744		△1,338	△26.3%
売上原価	4,236	83.3%	3,046	81.4%	△1,191	△28.1%
売上総利益	845	16.6%	698	18.6%	△148	△17.5%
販売管理費	601	11.8%	626	16.7%	+25	+4.2%
営業利益	244	4.8%	71	1.9%	△173	△70.8%
経常利益	250	4.9%	82	2.2%	△168	△67.3%
当期利益	162	3.2%	48	1.3%	△113	△70.3%

【総合建物サービス】

- <警備部門> 大阪・関西万博の警備業務
豊洲セイルパークビル警備業務開始
ミタマチテラス警備業務開始
- <清掃部門> 大阪での大型複合施設清掃業務開始
千代田区エリア複合施設の清掃業務拡大

<設備・工事部門>

サンシャインシティにおける店舗改装に伴うシャッター更新工事実施
内装工事、LED照明工事、消防設備工事等の臨時業務受注
大型家電量販店の昇降機設備等のリニューアル作業を多数実施

【人材サービス】

公共施設の駐車場案内業務の拡大

セグメント別 売上高／売上総利益

単位：百万円

	25/3期 上期	26/3期 上期	増減
売上高	5,082	3,744	△1,338
建物総合サービス	3,457	3,424	△33
人材サービス	1,625	320	△1,305

	25/3期 上期	26/3期 上期	増減
売上総利益	845	698	△148
建物総合サービス	680	655	△25
人材サービス	165	43	△122

連結 貸借対照表

貸借対照表

単位：百万円

	25/3期	26/3期 上期	増 減	主な増減要因
現金・預金	1,767	1,714	△53	
受取手形及び売掛金	1,111	940	△171	※
その他の資産	1,281	1,294	+13	
資産合計	4,160	3,948	△212	
買掛金	391	302	△89	
短期・長期借入金	381	274	△107	
その他の負債	1,211	1,176	△35	
負債合計	1,982	1,751	△231	
資本金	302	302	-	
資本剰余金	246	244	△2	
利益剰余金	1,581	1,581	+0	
自己株式	△42	△32	+10	譲渡制限株式報酬の支払
その他の純資産	91	101	+10	有価証券評価差額金
純資産合計	2,178	2,196	+18	
負債・純資産合計	4,160	3,948	△212	

※ シャッター工事等の売掛金減少

キャッシュフロー計算書

	25/3期 上期	26/3期 上期	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△960	105	売掛金の減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	4	23	
財務活動によるキャッシュ・フロー	337	△156	短期借入金の減少、長期借入金の返済による支出
現金及び現金同等物の期末残高	832	1,305	

01

2026年3月期上期決算の概要

02

中期経営計画の進捗と具体的な取り組み

数値目標

26/3期は、現中期経営計画の最終年度にあたり計画の売上目標75億円に対して、警備・清掃部門における新規の管理物件の増加と大阪・関西万博の警備業務を受注したことにより、**予算は8億円をプラスした83億円としました**。そうした中で第2四半期までの進捗として、**万博警備が無事完遂したことや、新たに受託した大型複合施設の警備や清掃業務の3物件が順調に開始、また一部の既存施設における価格転嫁も進み**計画の約50%を進捗しております。

利益については、現在進めております人的資本経営に沿った人財への投資や、昨今の人件費および物価高による費用の増加により利益率の改善が難航している状況です。下期においては、利益改善を課題として次期中期経営計画につながるように尽力して参ります。

【損益計画】	【実績】					【計画】	【予算】	【進捗】	計画進捗率	予算進捗率
	21/3期 (基準期)	22/3期 (1年目)	23/3期 (2年目)	24/3期 (3年目)	25/3期 (4年目)	26/3期 (5年目)	26/3期	26/3期 2Q		
連結売上高	5,935	5,742	6,027	8,097	8,845	7,500	8,300	3,744	49.9%	45.1%
売上総利益	1,070	1,092	1,103	1,450	1,520	1,500	1,541	698	46.5%	45.3%
売上総利益率	18.0%	19.0%	18.3%	18.0%	17.2%	20.0%	18.6%	18.6%		
営業利益	202	216	191	284	301	300	300	71	23.7%	23.7%
営業利益率	3.4%	3.8%	3.2%	3.5%	3.4%	4.0%	3.6%	1.9%		
経常利益	218	243	198	300	310	310	310	82	26.5%	27.3%
経常利益率	3.7%	4.2%	3.3%	3.7%	3.5%	4.1%	3.6%	2.2%		
当期純利益	147	164	127	245	187	217	205	48	22.1%	23.4%
当期純利益率	2.5%	2.9%	2.1%	3.0%	2.1%	2.9%	2.5%	1.3%		

トピックス **New** 新規警備業務の開始

① 「豊洲セイルパークビル」で警備業務を開始

～ RSCの複合施設警備のノウハウを活かした警備を開始 ～



豊洲セイルパークは、株式会社IHIと三菱地所株式会社が豊洲二・三丁目地区における最後の大規模再開発として推進するもので、2棟の建物(きんでん豊洲ビル・豊洲セイルパークビル)と大屋根広場、緑地空間を整備し、オフィス、商業エリア、インキュベーション施設、シェア企業寮等を備えた複合施設です。これからの豊洲を推進する帆(SAIL)としての役割を担い、その帆の元に人々が集い交流する公園(PARK)のような開かれた場を目指すという思いが込められています。このうち当社は、「豊洲セイルパークビル」の警備業務を受託し、2025年6月30日より業務を開始いたしました。

② 「ミタマチテラス」でセキュリティロボットを導入した警備業務を開始

～ セキュリティロボット「cocobo」と人的な警備を組み合わせたサービスの提供 ～

ミタマチテラスは、国際的な競争力に向け発展を続ける田町・三田エリア、その中核のJR「田町」駅から徒歩2分、都営地下鉄「三田」駅直結の20階建てという好立地の事務所・店舗・カンファレンス・インキュベーションオフィス・子育て支援施設・駐車場等を備えた環境配慮型のスマートビルです。「ミタマチテラス」では、AIを搭載した最先端のセキュリティロボット「cocobo(ココボ)※」と人的な警備を組み合わせたサービスを提供し、警備体制を強化してまいります。



※ cocobo について：セコム株式会社（本社：東京都渋谷区、以下「セコム」）が開発した、AI・5Gなどの最先端技術を活用して巡回警備、点検業務など、さまざまな警備業務を提供するセキュリティロボットです。異常を検知した際は、防災センター等に設置された監視卓へ異常信号を送信、常駐警備員と連携して対応します。また、同じくセコムが開発した「バーチャル警備システム」や建物内の監視カメラ映像、エレベーター等の設備情報など、クラウド上のさまざまな情報を共有・連携し、より高度な警備業務を提供することができます。詳細はセコムの[セキュリティロボット「cocobo」紹介サイト](#)をご覧ください。

※ cocobo はセコム株式会社の登録商標です。

RSCグループの成長戦略の具体的な取り組み①

当社は2号警備・イベント警備に特化した新会社『RSCセキュリティ』を設立し、専門性強化と事業拡大を推進して行きます。

課題① 社会ニーズへの対応

近年、社会インフラ整備の進展や多様なイベント開催の増加に伴い、交通誘導・雑踏警備のニーズが高まっております。

課題② 人材不足や高齢化の課題

警備業界全体として人材不足や警備員の高齢化が深刻化しており、質の高い警備サービスを安定的に提供し続けることが課題となっております。

RSCグループの55年に
わたり培ってきた業界
の信頼・技術・システム

『RSCセキュリティ』の設立

- (1) 徹底した隊員教育
実地訓練と具体的な教育内容を盛り込んだ独自の教育プログラムにより、高い危機管理能力と接遇スキルを備えた警備隊員を育成
- (2) 幅広い人材の活用
お客様の多様なニーズに応えられる質の高い人材を戦力的に配置し、活用
- (3) 現場密着型の体制構築
柔軟な運用体制を構築し、緊急時の人員調整や現場特性に応じた細やかな警備計画の立案



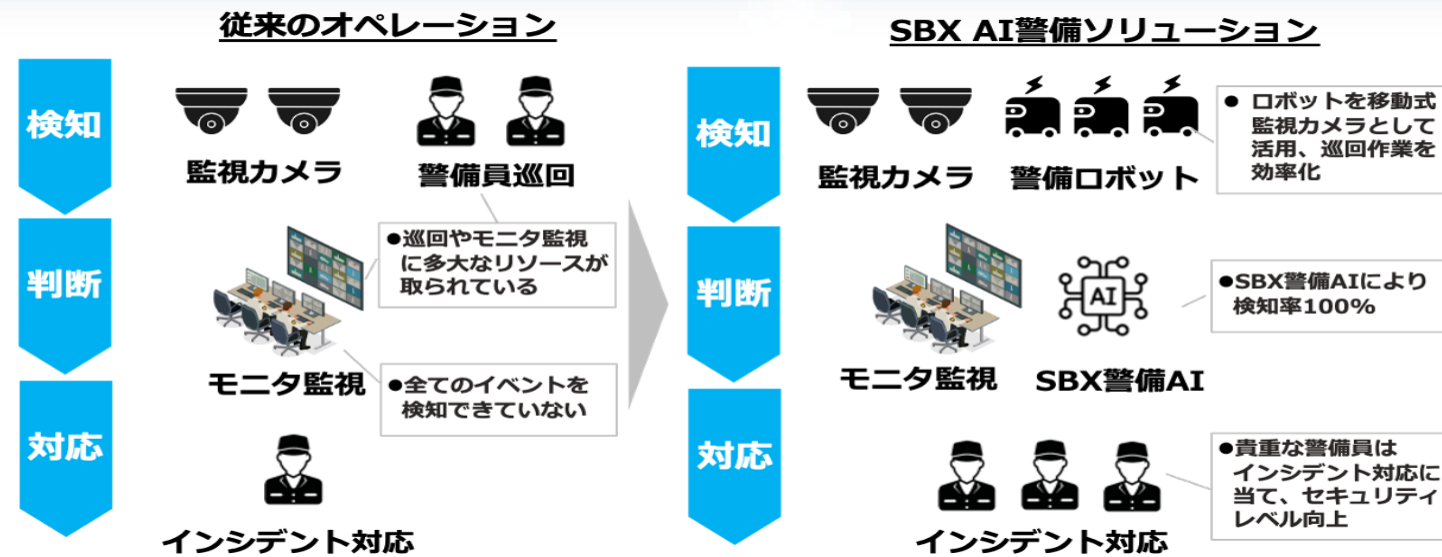
RSCグループの成長戦略の具体的な取り組み②

当社はソフトバンクロボティクス(以下「SBR」)との資本業務提携により、AI・ロボット等への積極的投資を行い次世代警備ソリューションを展開し、人手不足問題の解決と品質の高いサービスを提供して社会インフラのさらなる「安全・安心・快適」を目指します。

業務提携① AI・ロボットによる業務効率の向上

SBRの「SBX AI 警備」及び清掃ロボットにより警備・清掃業務の業務効率向上とサービス品質の均一化・高水準化を実現

【SBR AI 警備】



※ 上記は概念を示したものであり、実際の構成・運用結果を示すものではありません。

業務提携② AI遠隔警備サービス

SBRとの共同出資会社を設立し、施設の監視カメラを遠隔で監視するAI遠隔警備ソリューションを提供予定

サステナビリティ経営への取り組み～マテリアリティに紐づく取組実績～

当社のサステナビリティ基本方針をもとに2025年度上期における5つのマテリアリティ(重要課題)に紐づく取り組みを以下の通り実施しました。

マテリアリティ

主要な取り組み例

- 1 お客様からの信頼を礎にした事業活動と法令遵守意識の徹底
- 2 人的資本経営とダイバーシティの推進
- 3 地域社会への積極的な関わり
- 4 DXによるナレッジ蓄積とサービスクオリティの向上
- 5 地球環境への配慮

- 警備隊に対する所轄警察署からの表彰
- 熱中症対策義務化に伴う体制構築
- 働きやすい職場環境作り(プロジェクト継続活動)
- 大阪・関西万博への本支店員の積極登用(経験値の蓄積)
- 社員待遇改善への取り組み
- 各拠点の地域イベントへの参加(治安パトロールや周辺清掃等)
- 大阪・関西万博警備JVへの参加
- 新規案件へのDX提案の実施によりセキュリティロボット(cocobo)の導入
- ガイドラインを制定し、生成AIの積極的活用
- ソフトバンクロボティクスとの資本業務提携
- 社内ワークフローシステムの導入によるペーパーレス推進
- 警備制服のリサイクル

免責事項

- 本資料の作成に当たり、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、作成しております。
- また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。